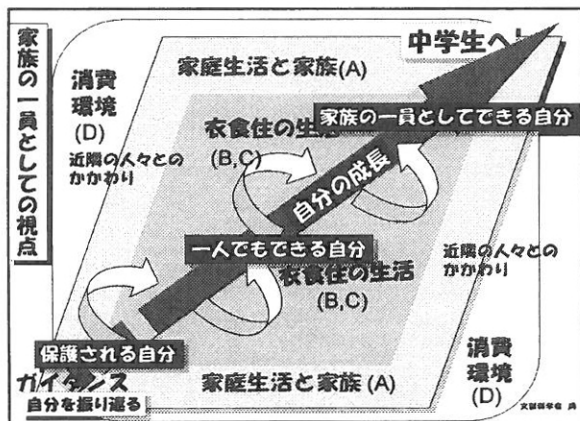


## 第8節 家庭

### 1 改訂のポイント

#### (1) 改善の基本方針

- 社会において子どもたちが自立的に生きる基礎を培うことを重視
- 小学校、中学校の学習の体系化による基礎・基本の重視
- 社会の変化への対応
- 実践的・体験的な活動と問題解決的な学習活動の充実
- 実践的態度をはぐくむ教育の充実



小学校家庭科の構造（イメージ図）

#### (2) 改訂の要点

- ア 内容構成（8内容から4内容へ）
- A 家庭生活と家族
  - B 日常の食事と調理の基礎
  - C 快適な衣服と住まい
  - D 身近な消費生活と環境
- イ ガイダンス的な内容の設定
- ウ 家族・家庭に関する教育の充実
- ・家族の一員として成長する自分を肯定的にとらえ、家庭生活と家族の大切さに気付くことを重視し、A(1)「自分の成長と家族」の項目を設定
- エ 食生活に関する内容の充実
- ・生活や学習の基盤となる食育の推進
- オ 主体的に生きる消費者をはぐくむ視点の重視
- カ 言語を豊かにし、知識及び技能を活用して生活の課題を解決する能力をはぐくむ視点の重視

#### (3) 目標

##### ア 教科の目標

①衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、②日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、③家族の一員として生活をよりよくしていこうとする実践的な態度を育てる。

教科の目標は、基本的な考え方は従来と同様であるが、ねらいをより一層重視する観点から改善されており、①学習方法の特質、②学習内容、③最終目標の3つの部分から構成している。

##### イ 学年の目標

- (1) 衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高め、その大切さに気付くようにする。
- (2) 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。
- (3) 自分と家族などとのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

学年の目標は、従前と同様に2学年まとめて示し、家庭科で育成する資質や能力を3つの側面から具体的に示している。下線部は、今回改められた部分である。

## 2 指導計画作成上の留意点

### (1) 指導計画作成上の配慮事項

#### ○題材の構成

- ・育成する資質や能力を明確にし、内容や方法を吟味する。
- ・関連する内容を続けて学習したり、関連する内容を組み合わせたりするなどして、効果的な学習指導が進められるように工夫する。
- ・学校や児童の実態を考慮し、教科のねらいを踏まえ、実践的・体験的な活動をより充実させるために各題材に適切な時間配分をする。問題解決的な学習による個に応じた課題の選択や集団で学ぶよさを考え、共通に学ぶ部分と個別に学ぶ部分を組み合わせた題材構成の配慮をする。児童が充実感や達成感を味わえるよう教材を工夫する。

#### ○「A家庭生活と家族」の(1)のAの指導

- ・ガイダンスとして第5学年の最初に履修する。
- ・「自分の成長」をAからDの各内容を貫く視点として位置付け、2学年間を見通して、学期や学年の区切りなど適切な時期にA(1)Aを関連させた題材を効果的に配列する。

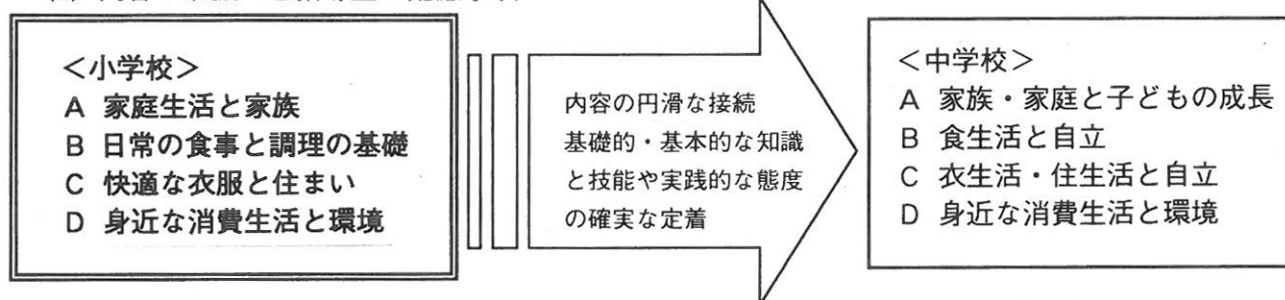
#### ○段階的な題材の配列

- ・B(3)「調理の基礎」及びC(3)「生活に役立つ物の製作」については、2学年にわたって扱い、基礎的なものから応用的なものへ、簡単なものから難しいものへ、要素的なものから複合的なものへと次第に発展するように、段階的に題材を配列する。

#### ○道徳との関連

- ・家庭科の特質に応じて適切な指導をする。
- ・年間指導計画の作成などに際して、道徳教育の全体計画との関連等に配慮する。

### (2) 内容の取扱いと指導上の配慮事項



#### A 家庭生活と家族

(1)自分の成長と家族 (2)家庭生活と仕事 (3)家族や近隣の人々とのかかわり

##### ○「自分の成長と家族」の項目の設定。

- ・第4学年までの学習を振り返り、2学年間の学習の見通しがもてるように、第5学年の最初に履修する。
- ・成長した自分が実感できるように、適切な時期にAからDの内容と関連させて学習する。

#### B 日常の食事と調理の基礎

(1)食事の役割 (2)栄養を考えた食事 (3)調理の基礎

- 中学校で扱っていた五大栄養素(炭水化物, 脂質, たんぱく質, 無機質, ビタミン)と食品の体内での主な働きを中心に扱う。
- 米飯とみそ汁: 我が国の伝統的な日常食であることにも触れる。
- 食に関する指導については、家庭科の特質に応じて食育の充実に資するよう配慮する。
- 1食分の献立: 米飯とみそ汁を中心とした1食分の献立を考える。
- 調理の基礎: 2学年間を通して1食分の食事が整えられるように、特にゆでたり、いためたりする学習は、平易なものから段階的に題材を発展させながら定着を図る。
- 調理に用いる食品については、生の魚や肉は扱わないなど、安全・衛生に留意する。

**C 快適な衣服と住まい****(1) 衣服の着用と手入れ (2) 快適な住まい方 (3) 生活に役立つ物の製作**

- 人間を取り巻く環境を快適に整えることへの関心を高め、衣服と住まいを関連付けて学習する。(快適とは、健康によく清潔で気持ちが良いこと。)
- 住生活の学習では、「暑さ・寒さ、通風・換気及び採光」のすべてを扱う。(中学校では安全な室内環境の整え方を学習するため、季節の変化に合わせた住まい方の事項は、必ず小学校で学習させる。)
- 生活に役立つ物の製作：2学年にわたって取り扱い、題材を平易なものから段階的に発展させながら学習できるよう計画する。

**D 身近な消費生活と環境****(1) 物や金銭の使い方と買物 (2) 環境に配慮した生活の工夫**

- 「A家庭生活と家族」「B日常の食事と調理の基礎」「C快適な衣服と住まい」との関連を図って学習する。
- 身近な物、身近な環境を取り上げ、常に自分の生活とかかわらせて実践的に学習する。

**(3) 実習の指導**

- 安全かつ効果的に学習を進めるために、学習環境を整え、事故の防止に十分留意する。
  - ・服装を整え、用具の手入れや保管を適切に行うこと。
  - ・事故の防止に留意して、熱源や用具、機械などを取り扱うこと。
  - ・調理に用いる食品については、生の魚や肉は扱わないなど、安全・衛生に留意すること。

**(4) 家庭との連携**

- 家庭との連携を図り、児童が身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用するよう配慮する。
  - ・知識と技能などは、繰り返し学習したり、日常生活で活用したりして定着を図る。
  - ・学習したことを基に家庭生活に生かし、継続的に実践できるようにする。
  - ・学習のねらいや内容を授業参観や学年だより、学級だより等を通して情報を提供したり、家庭での協力を依頼したりする。
  - ・家庭生活は個々の家庭によって異なることから、児童を取り巻く環境に十分配慮する。

**(5) 言語活動の充実と家庭科**

- 衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮する。
  - ・製作や調理などにおける体験を通して生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解できるようにする。
  - ・言葉や図表、概念などを用いて、自分の課題に基づき生活をよりよくする方法を考えたり、実習などで体験したことを説明したり、表現したり、話し合ったりするなどの学習活動を充実するように配慮する。

※学習指導要領における用語の説明

「内容」とは、A, B, C, D

「項目」とは、(1), (2), (3)

「事項」とは、ア, イ, ウ, エ, オ

### 3 Q & A

Q 1 年間指導計画作成に向けて、特に大切にしたいことは何ですか。

教科の目標がそれぞれの題材の底辺にどのように流れていくかというストーリーを浮かべながら、第5学年と第6学年の2学年間を見通して題材を配列していくことが大切です。

指導に当たっては、学校や児童の実態を考慮し、各内容項目の指導の順序や各事項の重点の置き方に工夫を加え、教科の目標や学年の目標を達成できるよう、「ここは調理の学習、ここは製作の学習」というように題材をぶつ切りにせずに、それぞれをつなげ、家庭生活を総合的にとらえられるように配慮することが必要です。

Q 2 ガイダンスの学習は、どのような扱いをしたらよいですか。

大きく2つの学習が考えられます。

例えば、小学校入学頃からの自分を振り返り、自分の回りでどのような衣食住の生活が営まれていたか、それらは自分の成長にどのようにかかわってきたかを考えたり、家庭生活の中で自分ができるようになったことを挙げ、それらは家族の理解に支えられてきたことに気付いたりするなどの学習が考えられます。

また、2学年間で学習する内容に触れ、第4学年までの他教科の学習との関連や、これからの学習で自分ができるようになりたいことや2年後の自分をイメージするなどの学習も考えられます。

Q 3 目標にある「家庭生活を大切にすることをはぐくむ」ことは、どのようにとらえたらよいですか。

「家庭生活を大切にすることをはぐくむ」とは、家庭生活への関心を高め、衣食住を中心とした生活の営みを大切にしようとする意欲や態度をはぐくむことです。「家庭生活を大切にすることをはぐくむ」を教え込むことではなく、実践的・体験的な活動を通して、児童に気付かせることが大切です。

Q 4 「A(2)ア 家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが分かり、自分の分担する仕事ができること」をどのような視点で評価したらよいですか。

ここでは、家庭には衣食住や家族に関する仕事があり、自分や家族の生活を支えていることが分かるとともに、家族の一員として仕事を分担する必要性に気づき、自分の分担する仕事を工夫してできるようにすることをねらいとしています。

特に、「自分の分担する仕事ができること」の評価は、家庭での仕事のできばえの良し悪しを細かく見ていくことではなく、自分の分担する仕事を工夫して行っているか、仕事に責任をもって継続的に実行しているかなどの視点で評価をしていくことが大切です。

Q 5 五大栄養素は、小学校ではどの程度扱えばよいですか。

小学校では中学校の学習につなげる基礎的事項として、五大栄養素の名称やその体内での主な働きを中心に扱います。指導に当たっては、名称や働きを覚えることだけに重点を置くのではなく、栄養を考えて食事をとることの大切さが分かるよう、B(1)食事の役割、(3)調理の基礎の学習や、給食の献立との関連を図りながら、日常生活に即して具体的に学習できるようにします。